

消防団への民間協力体制について

四 竈 英 夫



〔質問〕消防団員は、市民の生命、財産を守るため、昼夜を分かたず献身的な活動を続けている。

しかし、時代の流れとともに団員の高齢化が進み、加えて後継者不足が深刻な問題となっている。また、職業の多様化により、平日の日中、自宅にいる団員の数も極めて少なくなってきた。従って、災害発生時に、いち早く現場に急行できる団員が少ない時のために、消防団員のOBを予め協力員として委嘱し、消火活動等の支援をする体制を図る考えはなにか伺いたい。

〔答弁〕【市長】消防団は、厳格な指揮命令系統のもとに、活動を行っている。消防団員OBに従って、消防団員OBを協力員として委嘱した場合、指揮命令への混乱が懸念される。

これまでも火災発生の際には、消防団員OBはもちろんのこと、自主防災組織や婦人防火クラブなど、地域の防火防災関係団体の皆様に後方支援のご協力を頂いている。従って、消防団員OBの方々を協力員として委嘱しなくとも、まず地域の防災組織のリーダーとしての活躍・活動をしていただくことが、より実践的ではないかと思っている。

2月1日現在、自主防災組織は、113自治会中84自治会83組織が結

成され、74.3%の結成率である。今後、これをさらに高め、活動の支援をしていくことが重要であると考えている。

〔農業者戸別所得補償制度について〕

〔質問〕農業者戸別所得補償制度は2年目を迎えるが、昨年度の農家の申請状況は31.9%であり、制度が十分に活用されたとは思えない。この制度の理解を深め、少しでも多くの農家が申請を行い、所得の向上を図るべきと思うが、今年度の対策について伺いたい。

〔答弁〕【市長】昨年度の申請率が低かった理由は、稲作面積が10アール以下の方が多かったからではないかと推測している。今年度は、農家組合を通じた情報提供に加え、市農林課、JA白石地区本部に相談窓口を設け、さらに広報しろいしを活用し、周知を図りたい。

白石の交流人口の恒久的継続の方策について

大 野 栄 光



〔質問〕鬼小十郎まつりは、戦国武将ブームもあり、大変な盛況ぶりである。白石にとって、インターネットやゲームで当地を知り訪れた方々が一過性のものでなく恒久的な継続であってほしいと思う。

そんな観点から、仙台市には、青葉山公園整備に片倉家武家屋敷建設計画があることから、当市も相乗効果があると考えられる。

この計画に対し、何らかのかわり方がないものかと思うが、市長の所見を伺いたい。

〔答弁〕【市長】今仙台市が計画している武家屋敷建設については、お互いにPRをしてい

くことが必要と考えている。ただ、公園整備に関しては、白石市との緊密な連携という事には至っていない。今後PR活動をしっかり行い、両方見られるような雰囲気づくりをしていく事が課題ではないかと思っている。

〔深谷工業団地への工場誘致の進捗状況について〕

〔質問〕当市が造成した福岡深谷工業団地が完成し、引き渡しを待たずばかりとなっている。完成時には市民の雇用への期待がふくらんだが、雇用状況が厳しく、相次ぐ工場撤退に「早く若い人たちが働ける場をつくってほしい」と言われる。

そんな市民の願いにこたえる日が近いこと

を期待し、現在の工場誘致の進捗状況を伺いたい。

〔答弁〕【市長】本市における雇用の環境というのは依然厳しい状況が続いている。工業団地への企業の早期立地というのが私を含めた市民共通の願いであると思っている。

現在も職員ともども企業訪問などを行いながら、本市における企業立地環境のアピールに努めている。ただ、現在における経済状況、また企業の投資計画も、なかなか立地決定に至っていないのが現実である。

今後とも企業の早期立地に向けて、23年度最重要課題として全力で取り組んでいきたい。